

新年度を迎えて

副会長 鎌田 元康



参照)

新年度を迎え、会員皆様はいかがお過ごしでしょうか。

本年度は、1985年5月15日に設立された日本トイレ協会の30年目の節目の年となりますが、山本副会長が昨年の協会ニュースNo14-2に書かれた文章に、設立当時の状況から現在までの経緯につき、以下のようなことが記されておられます。設立前年に、様々な立場・職業の方がトイレについて楽しく議論する場である「トイレトピアの会」が誕生したことがきっかけとなり協会が発足したこと

・設立翌年には、第1回と第2回の全国トイレシンポジウムが開催され、その後毎年1回開催され続けていること（各年のタイトルについては協会ホームページ

- ・公共トイレを対象とした「グッドトイレ10」の表彰から始まった制度を見直し、現在も「グッドトイレ選奨」として継続していること
- ・設立当初、日本はバブル景気に沸いた時代で、日の当たらなかった公共トイレや商業施設のトイレにお金をかけることができたため、一気にトイレ事情が好転したこと、4K「汚い、暗い、くさい、壊れている」という言葉は、「トイレトピアの会」が生みの親であること
- ・1992年「メンテナンス研究会」、1996年「学校トイレ研究会」、1997年「ノーマライゼーショントイレ研究会」、1998年「山のトイレさわやか運動」（後の「山のトイレ研究会」）、1999年には「河川トイレ研究会」、2000年「次世代トイレ研究会」、2002年「エコトイレ研究会」、2003年「自己処理型トイレ研究会」など時代の要請に応じた研究会がスタートしたこと
- ・忘れてならないものとして1995年1月に起きた阪神淡路大震災のトイレパニック問題があるが、災害時のトイレのあり方について、種々提言をしてきたこと
- ・2009年から、トイレ文化の創出を目指す「日本トイレ協会」と、トイレを通じた社会的事業を目指すNPO法人「日本トイレ研究所」の2つに分かれて活動を再スタートしたこと

などなど。私にとって日本トイレ研究会の存在意義を再認識させられる内容が多く含まれておりました。既に読まれた方が多いとは思いますが、読まれていない方には、是非ご一読くださることをお勧めしたいと考えております。

設立30周年記念出版として計画された『トイレ学大事典』（仮題）の編集作業が大詰め段階にきており、本年1月には、設立当初約10年間事務局長を務められ、協会の活動経緯を熟知するとともに、アイデアマンでもある上記の山本耕平副会長をまとめ役とした記念事業実行委員会が立ち上げられ、記念総会、記念シンポジウム、各種イベントの開催、さらには「おもてなしトイレ推進プロジェクト（おもてなしトイレの定義・基準づくり、統一シンボルマーク・サインおよびマップの作成）」の実行などが計画されております。会員の皆様にも、積極的に参加いただき、本年度が日本トイレ協会会員の皆様にとって実り多き年になるよう祈念しております。

昨年8月末、ウェブ情報で、イギリスと云うよりはスコットランドの古代ローマ補助軍の要塞の、かねて木簡発掘で有名なヴィンドランダ遺跡から、史上初めて木製トイレ便座の出土が報告され話題となった。これまで石製や大理石製のトイレ便座の発掘は多く、木製も想定されてきいていたが、今回はじめてそれが立証されたのだ。ヴィンドランダの風土やむ土壌が有機物を分解しにくいので、この僥倖となったのだが、発掘団は「次はスポンジ発見だ」と張り切っている由。私はさすがにそりゃ出来ないだろうと多寡をくくっている。と云うのは、地中海産が主流のそれが最果ての北国からそうそう出るわけないし、スコットランドでは事後処理に地元の豊富で心地よい感触の「こけ」を使っていたと、どこかで読んだ記憶があるからだが、ともかくトイレ話には未知の世界が残っていることだけは確かである。



1 スコットランドから出土した「木製便器」

そもそも古代ローマ史文献学徒の私がトイレに興味を持つようになったのは、いつ頃のことだったか。

たぶん今から25年以上前の、ポンペイ遺跡に二度、三度と逢瀬を重ねた頃だったのでは。なにが不思議だったかという、あれだけタバerna(飲食店)が軒を並べているのに、その店内周辺にトイレが見当たらなかったことだった。飲食すれば自然現象としてもよおすはず、と云うわが身の常態からすると、どうしていたの? と云う疑問が否応なしにわきあがり、その後どの遺跡を訪れても、つい「トイレ」を探す自分に気づいたと云う次第。その結果、私の最初の見立ては間違っていて、あちこちにあることもわかったのだが、こんなことで始まったトイレ行脚が手探りで10年も続いたのだろうか。この「穴場めぐり」は結構面白い「頭の体操」でもあった。現場体験で私の知見も深まって来たのだろうか。そのうち妙なことに気づきはじめた。一言で云うと、通説への疑問だった。巷間に流布している通説の多くは、もっともらしい憶測に過ぎないのでは、と云うわけだ。ちょっと考えれば、そのおかしさに気づくのだが、だから「頭の体操」なのである。しかし生活誌の一環として触れられることこそあれ、その当時、研究レベルでの報告は皆無に近い状況で、そういう中で拙い試論を公にする勇氣は私にはなかった。この状況が一変したのは21世紀に入ってからで、どういうものか陸続と専門研究が交刊され出し(代表的先達を挙げればオランダ人 Gemma C. M. Jansen 女史と、英国人のリタイヤ家庭医師 Barry Hobson 氏で異論なからう)、それによって私見の足らざる面や着眼点を検証することが可能になり、ある程度自信をもって私論を提示することも出来るようになった。

古代ローマのトイレについては、以下のように言及されるのが常だろうか。「古代ローマ人の、エトリリア渡りの上下水道技術は素晴らしかった。すでに水洗式の公共トイレもあって、壁沿いのベンチに穴がくりぬかれ、それに腰掛けて用を足した。汚物は下水道経由で河川に流された。ただ現在と違い便座間に仕切りはなかったノデプライバシーはなく、むしろ会話を愉しむ社交場の趣だった。排便後の後始末は海綿(スポンジ)でやった。」かなり氣の利いた解説では、このような公共トイレは例外なく公共浴場に隣接していてそれは浴場での排水再利用のためだったこと、そして個人の邸宅ではだいたい台所にトイレがあり、よって「台所トイレ」と称する、と云った点にも触れていたりする。

古代ローマのトイレについては、以下のように言及されるのが常だろうか。「古代ローマ人の、エトリリア渡りの上下水道技術は素晴らしかった。すでに水洗式の公共トイレもあって、壁沿いのベンチに穴がくりぬかれ、それに腰掛けて用を足した。汚物は下水道経由で河川に流された。ただ現在と違い便座間に仕切りはなかったノデプライバシーはなく、むしろ会話を愉しむ社交場の趣だった。排便後の後始末は海綿(スポンジ)でやった。」かなり氣の利いた解説では、このような公共トイレは例外なく公共浴場に隣接していてそれは浴場での排水再利用のためだったこと、そして個人の邸宅ではだいたい台所にトイレがあり、よって「台所トイレ」と称する、と云った点にも触れていたりする。

ただ、前もってお断りしておく。研究者は証拠に基づき述べているつもりでも、その論が行き着くところが必ずしも真実のすべてではない。トイレ話の落とし穴はいくつもあって、たとえば、トリマルキオのよう

な大富豪は常に尿瓶担当奴隷を同伴し、指ぱっちんで周囲を奴隷たちに取り巻かれ、プライバシーを守りながらどこでも用をたすことができたし、また自室の寝台下には尿瓶が常備されていて、現代人同様プライバシーを守りながら用を足すことができた（ペトロニウス『サテュリコン』27；マルティアリス『エピグラマタ』III. 82；VI. 89；XIV, 119：尿瓶携帯は古代ギリシアの壺絵の画題だった）。他方、世間体を気にしない社会層は、おそらく男女限らず、場所もはばからず（壁に向かったり、路地や他人の果樹園や菜園に入り込んで）、すなわちそこら中で大小の用をたしていたのが現実だった（牧畜社会のあちらでは、街頭に家畜やペットの糞が散乱している風景は今でも身近なことをお忘れなく）。となると、いわゆる公共トイレの位置づけも再検討されてしかるべきだろう。私は、あれは非富裕層対象の、大便専用施設だったと密かに考えている。

しかも小便は再利用の価値があったので、洗濯業者や縮充業者や皮なめし業者の私設簡易トイレとして、街頭や路地に立ちション用の壺＝アンフォラ（これも廃品活用の）が立てかけられていた。また、下水溝を備えていない大多数の個人住宅では、かつての我が国と同様、糞尿は地下の便壺やドリウムに溜められ、業者が汲み出して都市近郊の農地に運ばれ、家畜のたい肥の補助肥料として利用されていた（②）。要するに公共トイレは貴重な資源の浪費だったし、公共浴場ともどもいわれているほど清潔な空間だったわけでもない。盛んにその先進性が喧伝されるポンペイだが、実はほとんど下水道が敷設されておらず、ウェズヴィオ山の斜面立地を利用して、あの石畳の道路がその役目を果たして汚物を下方に垂れ流していたのが現実で、それでこそ、他に見られないポンペイ独特の街路の飛び石の役割も正しく察することができるのである。

ことほどさように話題にこと欠かないが、遺跡見学で目立つのは「公共トイレ」とはいえ、ここでは隠れた主役の「台所トイレ」を中心に話を進めよう。実はこれには2種類あるが、遺跡でよく出会うのは、台所の片隅ないし周辺に固定設置されたもので、便座の台座部分と足下で水を流すため敷かれたスレート状の平瓦（tegula）が目印となる。ここではエルコラーノ遺跡の「コリント式中庭の家」Casa dell' Atrio Corinzio（v. 23）を挙げておく（以下、引用典拠なし写真は豊田撮影）。

仕切り壁の左側構造物はいわゆる「かまど」で、あの上に五徳を置いて木炭を燃やしていた（台の下の空間は燃料置き場で、焚き口ではない）。右側がトイレで、隅石と便座は失われてしまったものの、足下のスレートはかろうじて目視できる。④で表示しているように、用が済めばびしゃっと水を流し、汚物はあるいは地下深く堆積している火山礫の中に拡散浸透し、あるいは排水溝で屋敷外の下水溝へ向うか、なんとそのまま道路上に流れ出す仕組みになっていた（その手前地下に汚物だめは設置されていたが）。



2 台所トイレ:平瓦が敷かれ手前が高くなっている

トイレがなぜ台所にあるのか。現代的な衛生感覚ではいぶかる向きが多いだろう。台所で働く女性＝主婦専用のトイレだったから、ともっともらしく説明されてきたが（よって「主婦トイレ」とも称される）、どうだろう。ここには2つの落とし穴がある。一つは、古代ローマ時代は基本的に奴隷制の上に成り立っていた、という現実である。現代社会が電力抜きでは何もできない事態に我らは最近直面したが、かの時代、動力や機械代わりが奴隷だったということを認識するなら、たとえ中流家庭の女主人といえども自ら台所に立ってこまごま家事をしていたはずはない。またプライバシーはまったく考慮されていないので、奴隷用のトイレだった可能性が高いはずだ。

第二の落とし穴はより重要、と私は思っている。③のエッチングは19世紀末-20世紀初頭に編纂された優れた古事物辞典掲載のもので、以下がその解説である。「周囲より高くなっている石造りの2つの台座は、



3 固定型台所トイレ現況図

足の位置を示している(1)。右側を支えている隅石(2)の上には便座があったが、現在は消失している。急な傾斜(3)が壁の奥(5)のトイレの底へと傾き、下水道につながっている。上階から降りている1本の管(4)は、その大きさから見て家庭排水ないし二階トイレの排水管だった」。ちょっと横道それるが、ここでさりげなく、すでに二階での生活排水やトイレの存在が喝破されていることにご注目願いたい。

古代ローマ人のみならず現代イタリア人の生活空間を考える上で基本的に重要な、しかし肝腎の生活実感に乏しいためだろうが、専門家すらこれまで見落としてきたポイントがここにある。すなわち、常人の日常生活の主要区画は我が国でいう二階にあった。遺跡巡りの見学者が例外なく陥りやすい誤解、それは遺跡には通常一階や土台部分しか残存していないので、

その限りで過去を再現してしまい勝ちだという点である。ちなみに現代イタリアにおいても、我らのいう一階を「地階」pianoterra、二階を「一階」primo piano と表現していることから明らかなように、大地に直結した一階はまともな人間が生活する適切な場とは考えられておらず、実際もっぱら店舗や作業場として日中活用されていて、二階が健康上安全で便利な居住空間（「貴族の階」piano nobile と称される）とされてきた。これはとりわけ人口稠密な帝都ローマの集合住宅にいえることで、そこから学ぶべきなのである。遺跡の全体構造を、現在失われてしまった上階で主人一家は生活していたという視点で見直すとき、従来の皮相な見解は根底から揺らぎ出すだろう。大邸宅では二階に台所もトイレも常備されていた、ということは、自然の重力活用の排水管はいうまでもなく、おそらく上水道も都市計画レベルでサイホンの原理により揚水の工夫すらなされていたに違いない（もちろん、大部分の住民はそういった恩恵に浴さず、奴隷が運び上げていたのが実情とはいえ）。

閑話休題、台所トイレに話を戻そう。なぜ台所にトイレなのか。③のバケツで自明なように、台所から出る生活排水の再利用に都合よかったからに違いない。かくのごとく一階は基本的に奴隷の居住・活動空間だった可能性が高い。

もう一つの台所トイレは平瓦なしの空間で、そこに今は消滅した木製の穴あき箱が置かれ、その中に汚物受け容器として壺や樽が入っていた、と考えられている。これは可動式でどこにあってもいいが、二階や中二階への階段下が定位置のようだ。ということは、プライバシーはなかったから奴隷用で、しかし設置場所が主人一家の居住域だと話はおのずと違ってくる。

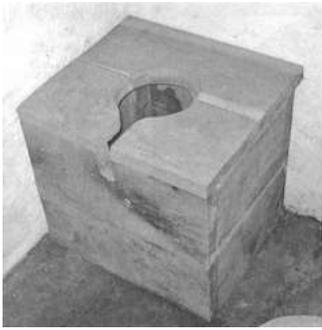


4-1 固定型台所トイレ模式

閑話休題、台所トイレに話を戻そう。なぜ台所にトイレなのか。③のバケツで自明なように、台所から出る生活排水の再利用に都合よかったからに違いない。かくのごとく一階は基本的に奴隷の居住・活動空間だった可能性が高い。

もう一つの台所トイレは平瓦なしの空間で、そこに今は消滅した木製の穴あき箱が置かれ、その中に汚物受け容器として壺や樽が入っていた、と考えられている。これは可動式でどこにあってもいいが、二階や中二階への階段下が定位置のようだ。ということは、プライバシーはなかったから奴隷用で、しかし設置場所が主人一家の居住域だと話はおのずと違ってくる。

こういった場合に使用された壺や樽の出土物に、私はなぜかこれまで博物館で対面したこと記憶がない。気づかなかっただけだろうか。展示がはばかられて収蔵庫にお蔵入りになっているのだろうか。⑥は当時の尿瓶の貴重な画像である。おのずと形態は男女別だったようだ。ふーむ、奥深い話だ。朝これを持ち出して中身をしかるべく処理したのは、もちろん奴隷である。



⑥-1 Carnuntum出土の女性用？尿瓶（2,3世紀）



⑥-2 Pompeii, VI. i. 1出土の男性用？尿瓶



⑤可動便座復元品:中に容器収容



⑥-3 男性用？尿瓶図案



⑥-4 女性用？テラコッタ製尿瓶



⑥-4 女性用？青銅製尿瓶

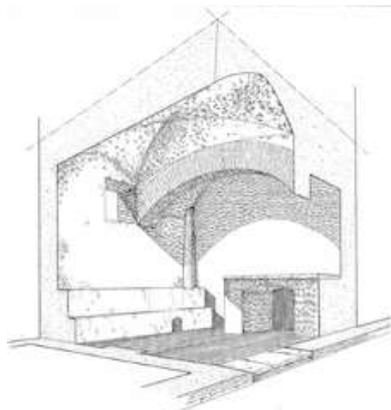
さて今から10年ほど前、考古学にはずぶの素人ながら古代ローマ・トイレ事情を多少突っ込んで調査しようという気になった頃、幸いにも文科省科研に採択され本格的な現地調査が可能となった。もちろん研究テーマは真面目な学術的体裁だったが、私にとって主要な現場はオスティア、ポンペイ、エルコラーノのトイレであり、現在もそれは継続中である(⑦)。発掘抜き表面調査とはいえ、連年の現地訪問により飛躍的にマル秘情報を増やすことができた。というのも、遺跡には一般観光客には非公開の場所がある。遺跡保存と見学者の安全を配慮してのことだが、調査のお墨付きで許可をとるとそこも見学できるからだ。その点で効果抜群だった事例を納税者諸氏に紹介したい。

まずは、かつてローマの外港だったオスティア。往時テュレニア海に注ぐティベル河口に位置していたが、現在は2キロ内陸になっている。この遺跡に例外的に二階が残っている箇所があって、そのひとつが「天井画の家」Casa delle Volte Dipinte(III. v. 1: 後120年頃創建 ⑧-1)である。この建物は外壁の厚さ65cmを根拠に三階建と想定されている。この独居型建物の用途には変遷があったようで諸説あるが、一階の北西角(X)は三世紀末ないし四世紀前半にタベルナに改装され、現在そこだけ公開されている。他の一階は多彩な壁画と舗床モザイクで著名で、例の秘画もあって売春宿と目される根拠となっている。上階(二・三階)はホテルないし集合住宅と考えられている。一階から三階まで続く幅広い外階段と、二階から三階に向かう狭い内階段もあって、これらがどのように使い分けられていたのか、なぜである。前者が主として三階の集合住宅の居住者用、後者がホテル区画専用だったのだろうか。

は原型を留めていないが、地下の排水溝直前の段差構造物にぽっかり開いた空間がその痕跡のようだ。このような土管の壁面埋め込み工法は、オスティアやポンペイ遺跡でよく目撃され、それらが後年の付加的設置であった可能性を強く感じさせる。なお、この建物の東側外部には側溝が掘られ、排水管開口部付近には石造りの排水マスも目視できる。



一階台所:右にかまど

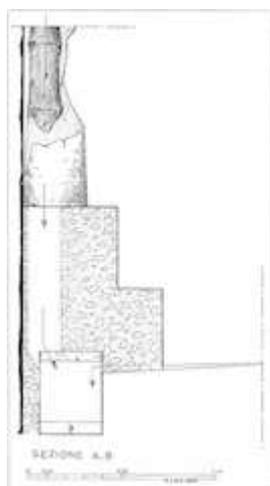


⑧-2 一階台所模式図



台所トイレ跡と排水管

立派な二階トイレを紹介して本稿を閉じよう。ポンペイ遺跡には例外的に二階の壁が数カ所残っているが、観光客も見学可能な場所は VI. 1. 30 と 31 である。その二階部分に煉瓦のアーチで補強されたニッチがあり（それもあって残ったのだろう：なお、右下横に四角い穴が三箇所みえるのは、二階の床を支える梁穴）、そこから壁隅に沿ってテラコッタ製の排水管（直径 20cm 級）が下に延びている。



⑧—3 東壁付近断面図



左橋が 30 番地、中央が 31 番地、角地はタベルナ

これだけでも驚きなのに、もう一つどっきりが用意されている。その壁の裏側の31番地の一階を覗くと、なんとそこにもしっかりとアーチ型ニッチが設置されているのだ！ ニッチの奥行きは約30cm。若干前屈みで着座し、事後は使用済みの汚水を流し込んでいたのだろう。店舗30と31番地の隔壁の上下にアクロバットの的にニッチ・トイレが設置されているということは、建設当初から計画的にそう設計され、地下におそらく南に向けて排水溝も敷設されているはず。

上記二例を根拠に、一階で壁面の排水管に隣接してトイレが設置されておれば、二階トイレを想定するのは、はたして行き過ぎであろうか。それはともかく、今や幻の存在となった古代都市の二階トイレや台所の実在には、ご納得いただけたらどうか。



VI.i.30 二階トイレと排水管



④—2 二階トイレの模式図



一階のトイレ・ニッチ

【引用文献・ウェブ】

- ① <http://archaeologynewsnetwork.blogspot.jp/2014/08/roman-toilet-seat-found-at-vindolanda.html#.VNdJsHZ8xHA>
- ② 池口守「古代地中海世界の都市近郊農業：ローマ人は人糞尿肥料を用いたか？」徳橋曜編著『環境と景観の社会史』文化書房博文社、2004年、13-47頁；参照、山本春樹「ローマ農業における『肥料』問題：特に動物肥料について」『古代文化』32（1980）、pp. 769-774.
- ③ Daremberg et Saglio, *Dictionnaire des antiquités grecques et romaines*, III/2, p. 990.
- ④-1 Gemma C. M. Jansen, *Water in de Romeinse stad: Pompeji-Herculaaneum-Ostia*, Maastricht, 2002, p. 61 ; -2 p. 60.
- ⑤ Barry Hobson, *Latrinae et Foricae: Toilets in the Roman World*, London, 2009, p. 137.
- ⑥ -1 Ed. by Jansen, Ann Olga Koloski-Ostrow and Eric M. Moormann, *Roman Toilets: Their Archaeology and Cultural History*, Leuven, 2011, p. 98 ; -2 Hobson, *ibid* ; -3 ジャクリーン・モーリー/文, ジョン・ジェイムズ/画 (桐敷真次郎訳) 『古代ローマの別荘 (ヴィラ)』三省堂, 1993, p. 15 尿瓶, p. 20 二階の寝台下の尿瓶 ; -4 Paul Roberts, *Life and Death in Pompeii and Herculaneum*, London, 2013, p. 128 ; 以下も参照, スティーヴン・ビースティ/イラスト、アンドルー・ソルウェー/文 (松原國師監訳/倉嶋雅人訳) 『図解古代ローマ』東京書籍, 2004, p. 11, 27.
- ⑦ いずれも基盤研究 (B)。2008-10年度「古代ローマ都市オスティア・アンティカの総合的研究」(研究代表者：日本大学・坂口明)；2010-12年度「古代イタリア半島港湾都市の地政学的研究」(豊田)；2014-16年度「ポンペイとエルコラーノの都市システム研究：物流、消費、廃物処理」(久留米大学・池口守)。以下の拙稿Web論文もその成果の一部：
http://pweb.sophia.ac.jp/k-toyota/monbukaken2010-2012/pdf/Koji-TOYOTA_Ambiente-dei-Sette.pdf
- ⑧-1 B. M. Felletti Maj, *Ostia-La casa delle volte dipinte*, in: *Bollettino d'arte*, Ser. 4, 45, 1960, p. 47, FIG. 2 ; -2 p. 48, FIG. 3 ; -3 p. 49, FIG. 4

(上智大学 文学部 教授)



学校のトイレを Art な空間に、 子ども達に豊かな Space を

NPO法人AS輪組 理事 中野晶子



「いっと6けん」の取材に笑顔で答える子供たち

組 っ て、。、。

学校のトイレを楽しいアート実現の空間に、大人も子供も寄ってたかっあすわぐみ AS輪て、わいわいと、アイデアや工夫で魅力のあるスペースにしようと活動しています。Art+Spaceの頭文字を頭に、「輪」を持って集まり、グループで活動するので「組」とした。学校のクラスにも一組、二組の名前があるように、私達の活動にも「組」をつけたのです。

ではなぜ、学校のトイレをアート空間にしたいと思ったのでしょうか。それは、トイレは自分一人になれるところで、排泄によって「ほっと！」する空間なので、文字や勉強から離れて、形や色や音などで楽しんでほしいからです。そして、様々な情報にあふれる学校の廊下や教室と違う異空間で一息ついてほしいからです。殺風景よりは、ちょっとドラマがあってもいいし、カラーリングで心が和んでくれればうれしいです。トイレに行くと世界の名画が楽しめるといいかもしれません。トイレでベラスケスや、ピカソや、光林の絵に出会ったり、カザルスの「鳥の歌」が聞けたり、等身大の美しい森や湖の写真があってもいいと思います。でもあくまでも楽しみです。トイレに行って、スッキリして、頭や心も軽くなって、次の事へ向かう元気が蘇ってくればいいのです。「明日に向かって」のあすわ組です。

担い手

私達AS輪組は、芸術作品との出会いも始めたいと思いますが、学校の当事者、つまり生徒たちとの出会いとコラボレーションも重要に考えています。なので、これから紹介するいくつかのプロジェクトは、学校の美術部の生徒さんや、児童、その父兄、先生方が作品制作の「担い手」となって活躍してくださったものばかりです。

そこに、私達AS輪組のメンバーがそのプロジェクトごとの内容によって、インテリアデザイナーがカラーコーディネートをし、建築士が現場を測量して材料の手配をし、日本画家が原画を指導し、イラストレーターがパターンを決めて、当日の作業となります。

それぞれの活動は、現場ではおよそ2日間の生徒さんたちとの協働作業としています。その前の準備はAS輪組の試行錯誤と、お互いの議論と、予算立て、人員配備、検討事項を次々とクリアーしていくことが、「黒子」としての役割です。

2つの体験

- 私が12歳の時、ゆえあって転校したアメリカの小学校での出来事と、
- 長男が日本の公立中学校に行って初めての学期で起きたこと。

Nature calls me.

1974年、ミシガン州のとある公立小学校の授業中、マイケルが手を上げて、「May I go to bathroom?」
先生 「Sure.」 =もちろん！

先生の授業は普通に続き、彼は教室から消えて間もなく戻りました。これで、まだ転校して間もない12歳の私は、トイレに行くことを恥ずかしがる文化から、まずは開放されました。さらにびっくりしたのは、トイレにいくと、横の仕切りはあっても。各ブースに扉がなかったのです。中央のまあるい噴水のような手洗器に向かって、みんなと一緒にやる感じ。排泄は、みんなで食事をするのと同じ営みだったのです

学校のトイレ

その18年後、横浜市の公立中学校で、若い担任の先生の上履きをトイレに流してしまったと言う事件が起きました。そのトイレを見に行き、その汚さと、暗さと、臭気。事件が起きたことの後味の悪さ。新任の先生のお気持ち、流してしまった者の気持ち、どれをとってもこのトイレの有り様が一つの原因ではないかと思いました。綺麗で明るいトイレがあれば、いじめは少なくなるかもしれない。子ども達が大切にされている思いをそこで感じてもらえるかもしれない。建築士は、快適な設備を目指し、心を休める何かを提案しなくては、。

AS 輪組のこれまでのプロジェクト

1. 天井、壁、扉にあーとする 横浜市 青葉台小学校 「スイミーのとおりゃんせ」 一年生のトイレ

小学校の周年記念行事として、夏休みに父兄にも参加していただいたアートワークです。一年生と二年生のトイレをアートしました。担い手は上級生達です。これは、NHKの「いっと6けん」の取材を受け、お父さんたちの頑張りも報われました。

角材に小さな魚や貝、海藻などを描き、家具職人と父親が天井に取り付けました。くぐれるだけの形にした木製扉に、アーティストが、海底の藻や珊瑚の板絵を描き、裏側に同じ絵を父兄と協力して生徒が模写しました。子ども達のスケッチによる海の中の動植物を糸のこでお父さんが切り絵して、それを子ども達が着色してできた立体物を、額縁に見立てたこれも手作りの白塗りのBOXに標本のように貼り付けたものです。これらの3つの作品群を洗面コーナーとトイレの中にレイアウトしました。



「森のとおりゃんせ」 二年生のトイレ

ここでは天井に、緑陰をイメージした葉っぱをたくさん描いてもらい、開け閉めできる人型に練り抜いた扉をくぐり抜けると、森のなかの虫や鳥たちが待っています。



「いっと6けん」の取材は子ども達も先生方にも思いがけないものでしたが、自分たちが達成した一つの空間を、下級生に使ってもらうという、連鎖が生まれ誇らしいものとなりました。



AS 輪組のこれまでのプロジェクト

2. 手洗いの前の壁をアートする 横浜市奈良中学校

「銀河」

実は、横浜市の公立中学校の洗面の前は鏡のないところが多いのです。理由は分かりませんが、予算なのか、壊れた時のメンテナンスなのか。一番自意識の高まる思春期前半にオシャレもしたい時なのに、鏡がないのは残念です。学校と相談したところ、鏡の採用がかない、三箇所のトイレ脇の洗面所に、美術部の生徒さんたちに考えていただいたテーマをイメージした画面が広がりました。市販の鏡とタイルを素材にしたコラージュです。AS輪組の委託アーティストの塗装専門家が、コーディネートした色を壁面に塗って下地を用意しました。

プロの塗っている色をしっかりとイメージの中に定着してから自分たちの作業に入りました。



「森のしずく」葉のイメージのグリーンの壁が下地の壁にカーブした鏡や、円形の鏡をレイアウトして、瑞々しい森の空気感を表現した中学生の想像世界が広がる



銀河は、細い棒タイルを沢山課題に出した時すぐイメージしてくれました。星座を



百科事典で調べて、それぞれが気に入った星を担当して全体の銀河系を天井まで張り上げていきました。



「陽だまり」 太陽のエネルギーを表現したオレンジの壁に四角形状の大小の鏡をレイアウトして、オレンジ色に塗られた壁面に幾何学の世界で構成しました。種類を限定してタイルも四角いものだけを渡すと、中学生の想像力はそれを膨らまして、太陽のぬくもりや、光の強さを表現して楽しんでくれました。鏡の中に写った友や自分の表情に、新しい見え方を発見して、楽しい水辺を創りだしてくれました。

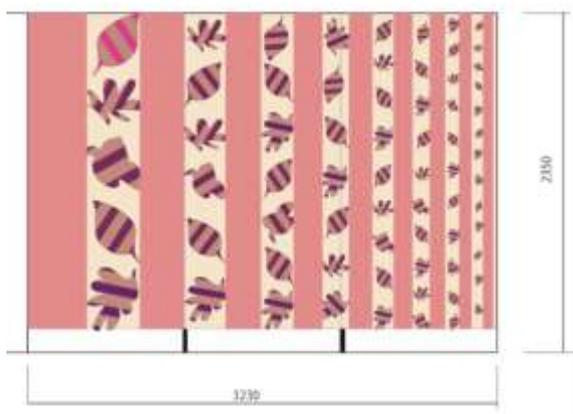
S 輪組の最近のプロジェクト

3. 狭いトイレの壁にアートする 川崎市玉川中学校

プロダクション・アート

川崎市の教育委員会では、AS輪組の活動をご理解いただき、テストケースとして玉川中学校の男女一対のトイレをアートすることができました。

狭いトイレの中の片側壁を、パースの効いた仕掛けで奥行き感にトリックを加えるものです。葉っぱの形は美術部の生徒さんがデザインし、コピー機で一番大きいパターンを81%ずつ縮小コピーしてその画像を切抜き、ストライプの幅も81%ずつ縮めていったもので、クリアー塗装の部分にカッティングシートの葉っぱを張り付けていきました。葉っぱにもストライプをかけています。



これからの公立学校のトイレとAS輪組

公立小中学校の生徒数縮減は、今後も進むことと思われます。生徒数に応じてつくられたはずの便器の数は、クラスも減っているのに、改修工事ではなかなか便器の数が減らされていないのが実情で、予算の配分に工夫を迫りたいところです。便器の個数、配管の箇所数を減らし、各箇所固有の設備の向上を望みたい。例えば、洗浄機能付きの便器に替えるとか、省エネのために人感照明を増やし、手を差し出すと流水するオート水栓に変換していくなど。

一番自己を意識する中学生の日常に鏡のない洗面所は、青春の細やかな心理を無視しているように思います。自分を見ることは、一番精神を落ち着かせ、自己を正すことができる大切なツールであると、先日の第30回トイレシンポジウムでも発表がありました。上手に鏡を活用していきたいと思います。

外国の手洗い排水を見ると、三人が同時に使えて、排水管は一つだけというのも製品化されているようです。手間工事や配管などの眼に見えないところに予算がかかることをふまえて、今後は配管の最短化を設備製品に反映したものの開発が望まれます。各メーカーの技術力に期待します。

AS輪組としては、トイレとアートを結ぶプロジェクトを皆さんに認知していただき、美術を身近に感じて頂くことと、アートは自ら作り出せる楽しい活動なのだと実感して、それをトイレの中に日常の中に広げていきたいと思っています。私達のアート黒子ワークが、出前として定着し、その費用もある程度定価のような設定ができれば、学校側もあるいは、公共施設側も利用しやすくなるかもしれません。

まだまだ場数を増やして、どこでも、どんな場所でもトイレとアートが繋がることを実感していただくことだと思います。設備やプランのデザインで小林純子さんが開いてくださった世界を、遠くから別の切り口で追いかけています。距離は全く縮まりませんが、皆様方の先見に学ばせて頂くことが続きます。どうぞよろしくお願いいたします。

AS輪組ホームページ: <http://homepage3.nifty.com/AandSstudio/aswagumi/index.html>

中野晶子: 本庄晶子建築設計室主幹、一級建築士

東京芸大建築科卒 東京建築士会理事及び女性委員会委員長

NPO. AS輪組理事、AS輪組創始者

協会の役割の一つとして「外部からの問合せ対応」があります。窓口は事務局で、ホームページの「問い合わせフォーム」「事務局へのメール」「電話」により対応しております。

問い合わせ内容は広範囲に亘り、マスコミはじめ公共団体、企業や個人、学生など数多くの質問をお受けしております。次に2013年度と2014年度の問い合わせを一覧表に纏めてみました。

2013年 ～ 2014年度 問い合わせ一覧表																		2015.3 事務局	
2013 月別	テレビ		新聞		公共		協会		企業		個人		学生		会員		計		合計
	HP	Tel	HP	Tel	HP	Tel	HP	Tel	HP	Tel	HP	Tel	HP	Tel	HP	Tel	HP	TEL	
4	1		1	1		1											2	2	4
5		3	2								1	1					4	3	7
6				1	2							2					4	1	5
7			1		1				1		1	1					5		5
8	1		1		1				2		1						6		6
9	6					5			1		2	1					10	5	15
10	4		1								1						6		6
11	2	4	1	1	1		1	6			1		1				8	10	18
12		5	1				2			1	1	1		1			4	8	12
1		2	1	1	2		1					1	1				5	4	9
2		1	2	2				1	2	5	2	1					11	5	16
3		1		1	1		2		3		2	1					8	3	11
計	14	16	11	7	8	6	6	7	9	6	12	4	7	1			73	41	114

2014 月別	テレビ		新聞		公共		協会		企業		個人		学生		会員		計		合計
	HP	Tel	HP	Tel	HP	Tel	HP	Tel	HP	Tel	HP	Tel	HP	Tel	HP	Tel	HP	Tel	
4	4		2	3	1					2	1				1	7	7	14	
5	2	10		2		3			2	2						4	17	21	
6		3		2		4		1		1					1	1	1	12	13
7		3		1	1	4		5		2							1	15	16
8	1	3	1			2		3			1	4				2	3	14	17
9	1	6	1	4	2	1	6	3		1		1			2	10	18	28	
10		4	4	1		4				1					1		5	10	15
11	2	6		2	1	5	1					1					4	14	18
12	1	4	1	1	1	3		5		1							3	14	17
1	3	11	2			2		6	1	1			1				7	20	27
2		3	2	1		5		2		4						2	2	17	19
3	1	2	1	2	1	2		2	3	2	1	1				1	7	12	19
	15	55	14	19	7	35	7	27	6	17	3	7	1		2	9	54	170	224

- 1 一覧表のHP ～「ホームページお問い合わせフォーム」及び「事務局へのメール」着信お問い合わせ
- 2 T e l ～事務局の電話(03-5844-6123)へのお問い合わせ
- 3 回答は迅速に行うよう努力 不明の点は役員に一斉送信でアドバイスを求めている。各役員の全面的な協力により、依頼者から感謝のメール又は電話を頂戴している。特に2014年度は地方からの問い合わせが激増のため、地方在住会員各位に絶大なご協力を頂き早期対応に実績を重ねている。
- 4 総数で2013年度に対して2014年度は約2倍 $224/114=196\%$
- 5 マスコミ関連 2013年度 48件 2014年度 103件 $103/48=214\%$
- 6 公共団体関連 2013年度 14件 2014年度 42件 $42/14=307\%$
- 7 2013年度に比較して当協会の社会的認知度が飛躍的に高まりつつあると感じている。

理事会経過(2015年2月～4月)

第9回理事会 2月2日(月) 17時30分～19時30分 於 (株)レンタルのニッケン

- 議題 1 出版事業について
2 30周年記念事業について
3 2015年度のスケジュールについて
4 各部会報告
5 事務局連絡

第10回理事会 3月2日(月) 17時30分～19時30分 於 (株)レンタルのニッケン

- 議題 1 2015年度総会のことについて
2 出版事業進捗状況について
3 30周年記念事業について
4 各部会報告
5 事務局連絡

2015年度第1回理事会 4月6日(月) 17時30分～19時30分 於 (株)レンタルのニッケン

- 議題 1 2014年度収支報告、2015年度収支予算
議題 2 総会プログラム
議題 3 出版事業について
議題 4 30周年記念フォーラム 全国トイレシンポジウムについて
議題 5 各部の報告
議題 6 事務局連絡

2015年度 日本トイレ協会 総会のお知らせ

開催日 平成27年5月30日(土)

- ★ 時間 13:00～総会 14:30～記念フォーラム 18:00～交流会(会費制) 19:30～解散
- ★ 会場 (株)レンタルのニッケン BF会議室 千代田区永田町2-14-2 山王グランドビル 地下鉄「赤坂見附」下車3分
- ★ 講演会 基調講演 坂上 遼氏(東京都市大学教授 トイレ探検家)
演題 「なぜトイレ革命に目覚めたのか ～ トイレ探検隊の目指すもの」

日本トイレ協会

JAPAN TOILET ASSOCIATION

URL: <http://www.toilet-kyoukai.jp>

〒112-0003

東京都文京区春日 1-5-3 春日タウンホーム 1F-A号室

Tel/Fax 03-5844-6123

E-mail: jta-jimukyoku@toilet-kyoukai.jp